令和２年度　栗ガ丘小学校グランドデザイン

－幼保小中一貫教育の推進－
3歳の入り口から15歳の出口まで一貫した教育課程で子どもたちの成長を支えます。また幼保・中学校との連携交流活動、地域と連携した活動をより充実させていくために次の3部会に全教職員が所属し推進します。

・学びづくり部会
・心づくり部会
・体づくり部会

－　小布施町が目指す子ども像　－
グローバル化が進む知識基盤社会の時代に、知(確かな学力)・徳(豊かな心)・体(たくましく生きるための健康と体力)が調和よく備わり、ふるさと小布施を愛する子ども
～心から愛せる未来の小布施町を創造していけるシチズンシップを備えた子ども～

のびゆくの像

－学校教育目標－
自ら学び　共に伸びゆく子ども
～豊かな心とたくましい体を育んで～
①基礎学力を身につけ、
②互いに認め合いながら自らの可能性を伸ばし、
③活動に浸り込む活力ある子どもを育む。

本年度の重点課題
感謝の思い・自尊感情・自己肯定感を高める

家庭・地域と連携して児童一人ひとりを大切にした教育活動を推進する。

－子どもの実態－
素直な児童が多い
興味のある活動は意欲的
体を動かすことが好き
自分で考えて行動することがやや苦手
人間関係が固定しやすい
元気なあいさつが増えつつある

－学校経営方針－
どの子も喜んで登校する「安心・安全な楽しい学校」
それを支える全教職員の団結力・同僚性「チーム栗小」

本年度の全校研究テーマ　学びをつくる子ども
～「できた」「わかった」喜びを実感しながら、自己更新していく子ども～

子どもを支える教師自らのあり方を問い合う教師集団

学びづくり（知）

何をつかってどう学ぶのか、ねらいをはっきりさせ、「できた」「わかった」喜びを実感できる学びをつくります。

1 **「主体的・対話的で深い学び」**を具現化した授業を構築します。
○　単元の学習問題を位置づけた単元構想を大切にします。
○　子どもが思わず「やりたい」「調べたい」「つくりたい」となるような素材の教材化に努めます。
○　思考・表現・判断の力を付けるための学習ノート、学習カードの工夫をします。
2 すべての学級で「探究的な学習」に取り組みます。(総合的な学習の時間を中心に)
3 授業を通して実践研究を行い、教師自身によるリフレクションを通して、子どもの学びや教師の有り様を問い合い、授業改善に取り組みます。
4 学力調査等の結果を分析し、明確となった成果と課題をもとに具体的な改善策を立てて進めます。

心づくり（徳）

郷土を育む「ふるさと学習」、人間関係づくりの土台として「あいさつ」、勤労観を育てる「清掃」を通して、自己肯定感を高め、豊かな心をつくります。

1 生活に根ざした学習を推進し、「ふるさとを大切にしようとする心」を育てます。
2 「宝物ファイル」「キャリアパスポート」に自分の心の歩みを綴り、「自分のことが好きになる心を育てます。
3 相手が気持ちよくなるあいさつができるような「あいさつ上手」を増やします。
4 見通しをもって清掃に取り組み「働くことの尊さ」を実感できる子どもを目指します。
5 「北信地区図書館教育大会」における授業づくりを窓口にして、自己更新していく子どもの姿を見取れる教師の眼を養うと共に、自己肯定感を高めていく子どもの育成について実践研究に取り組みます。

体づくり（体）

正しい体の使い方を身につけるプログラム、体力・健康づくりの習慣化を図りたくましい体をつくります。

1 毎日の「栗小体操」「30 秒気を付け」(姿勢)「ジャックナイフストレッチ」(柔軟性)スタビライゼーション」(体幹)を行い、基礎的な体づくりをします。
2 運動能力、体力、体幹を分析し、成果や課題を体づくりに生かします。
3 授業(主に体育)を通して、実践研究を行い、自分の体を進んで鍛えようとする子どもを育てます。

キーワード　「感じる」「捉える」「つながる」エンパシー・コミュニケーション力

学力向上プラン

1　授業改善や学力向上を目指した取組
○「ねらいを明確に」「めりはりをつけた授業」「ねらいの達成を見とどける」と授業の3観点の質の向上を目指します。
○ICT(みらいスクール)・デジタル教科書を存分に利用したわかりやすい授業に取り組みます。
○**プログラミング的思考**を大切にした授業のあり方について研修を深め、授業実践に取り組みます。
○ドリルの時間の効果的な運用に取り組みます。
○家庭学習の充実「家庭学習のてびき」をもとに授業とリンクした内容になるように取り組みます。

２授業改善や学力向上の評価検証（ＰＤＣＡサイクルの構築）
○単元テスト、学力テスト(ベネッセ)、全国学力学習状況調査等、児童アンケートを分析し、改善点をみつけながら取り組みます。
○「できた」「わかった」喜びを実感する子どもたちの姿を通して、授業の振り返りを行い、**「主体的・対話的で深い学び」**の実現に向けた授業改善に取り組みます。
○初任者研修の示範授業を、全教職員が互いの授業を見合う場として位置付けます。

のびゆく

1 ふるさと小布施(人、もの、こと)に積極的にかかわり、進んで小布施のことを学ぼうとする。
2 相手とのかかわりを大切にしながら、主体的に課題を解決していく。

～Ｒ元年度の学級・学年の実践～
3 年「ウォークラリー」
4 年「小布施丸ナス」「小布施音頭」「栗祭」
5 年「私たちの田んぼ」「弾季舞」「菜種油」
6 年「北斎巴錦」
R2年度は、子どもの興味・関心をもとに単元を立ち上げ、子どもの学びや育ちを見通して内容を工夫します。

～大切にすること～
○様々な教科等と関連付けます。
○1,2 年生活科とのつながりを大切にします。
○カリキュラムマネージメントの取り組み
・小布施町の実態を把握し、栗小がこれまで積み上げてきた強みを生かします。
・生活・総合で育成を目指す**資質・能力**を核として、各教科で育成する資質・能力でつながりのありそうなものを関連付けていきます。

連携

1 幼保小中一貫教育
2 PTA活動
3 小布施学園コミュニティスクール(学校応援ボランティア)を積極的に活用します。

特別支援教育

1 特別支援　コーディネーターを中心に一人一人のニーズに対応した教育を目指します。(多様性)
2 児童の居場所を大切にし、安心して生活できる環境を整えます。
3 須坂小通級指導教室、須坂支援学校等との連携を密にします。

各種研修

1非違行為防止研修を通して、教育職員としての自覚と責任をもって生活できるよう努めます。
2人権同和教育研修等、教職員の力量向上に努めます。
3職員研修等を通して、新学習指導要領に対応した指導力向上を目指します。